

第17回日本免疫毒学会学術大会 総会（兼 評議員会） 議事録

日時：平成22年9月9日 13:05～13:45

場所：独立行政法人国立環境研究所 大山記念ホール

資料；事業報告（案）ならびに事業計画（案）を会場にて配布，その他はスライドにて映写（本議事録に添付）。

恒例により年会長の藤巻先生の司会にて開会が宣言された。

1 澤田理事長挨拶：台風が通過するという状況の中で多くの会員・評議員の先生方にお集まり頂いて感謝する。また素晴らしい学術大会となっており，年会長の藤巻先生に感謝する。後述するが本年度より事業報告並びに計画を文書で提示することになり，事業計画の年度を10月1日開始とすることにした。それに伴って今日は人事などの案件も多く，議事を円滑に進めて行きたい。

2 報告事項

2.1 事業報告（澤田理事長）（資料1）

事業報告は，平成21年度分であり，期間としては平成21年4月1日から平成22年3月31日までの報告である。事務局・委員会等の報告を含んでいる。

2.2 事務局報告（大槻理事）

2.2.1 会員動向（資料2）：グラフに示す様に会費未納3年以上の自動退会を実施して以降，会員数は漸増している。本年9月6日現在で会員総数247名，名誉会員・住所不明による旧会扱いを除くと会費納入義務者は一般228名，学生10名である。尚，入退会の現状は，資料通りである。役員人事で理事・評議員の上田志朗先生が退会，評議員の尾上正治先生が退会されて減となっている。

2.2.2 会費納入状況（資料2）：2007～2009年度にかけて未納は1割弱であり，まずまずの納入状況だと考える。今年度はまだ3割弱の未納があり，学術大会受付で，またそれぞれ請求して行く予定である。

2.2.3 バナー広告報告（資料3）：現在4社に減少している。今年度から会費値上げで学会会計は一時期よりも若干余裕が生じてきているが，バナーをもう少し増やしたいので，ご協力をお願いする。

2.3 学術大会

2.3.1 第16回学術大会終了報告（資料4）（吉田第16回年会長）：

昨年度は旭川にお集まり頂き感謝する。いくつか固有の研究集会助成を受けることが出来たので，戻し金が捻出できた。招聘ならびにSOT/ISS (Society of Toxicology, Immunotoxicology Specialty Section) との交流事業で来日した二人も集会後のエクスカージョンも含めて満足して帰米された。

2.4 委員会報告（資料5）（大槻理事）

2.4.1 学術・編集委員会

2.4.1.1 順調にNewsLetter (ImmunoToxLetter) を発刊した。14(2)は2009年12月，15(1)は2010年7月に発刊。HPに掲載し，mailing list に添付してで会員に配布した。

2.4.1.2 今年度の学術集会でもアンケートを取り，集計するので記入をお願いする。

2.4.1.3 後述するが，新委員に新藤智子先生，西村泰光先生に就任を頂いた。

2.4.2 広報委員会

2.4.2.1 バナー広告あるいは賛助会員を募集しているので，まずは理事の各位には是非推薦してほしい。

2.4.3 試験法委員会

2.4.3.1 資料に掲載している様に KLH-TDAR について複数社による標準化に向けての共同研究の実施をサポートしてきた。今後、成果を適当な Journal 上に公表することを考えている。また、新たなテーマについては、HP などを通じて会員からの意見を集め、反映して行きたい。

2.4.4 国際化委員会

2.4.4.1 SOT/ISS との交流事業については、2011 年のワシントン D.C. で開催の 50 周年記念 SOT 年会には、ISS のワークショップとして吉田理事提案の課題が採択された。第 18 回千葉には Food Allergy で講演頂く先生を SOT から招聘することになっている。

2.4.4.2 次年度の SOT 年会は、50 周年記念大会となるので日本免疫毒性学会からブースを出展し、本学会の歴史や活動を紹介する。出展料は \$ 550 とのことで、澤田理事長、中村委員長、事務局大槻の合意で出展することとした。理事の先生方には、ポスター作成においてご協力をお願いすることもあるのでよろしくお願ひしたい。

3 審議事項

3.1 事業計画（案）（資料 6）（澤田理事長）

3.1.1 本学会は、学術集会在例年 9 月中～下旬に行われる事情もあり、事業計画の期間を総会当日から総会前日までとする。特に平成 22 年度後半は、後で議題となる役員改選の時期にも当たる。その他、事業計画には、学術大会の開催、各種委員会の活動に加えて、後で議題となる「学会賞及び奨励賞の新設」なども含めてある。

審議結果：事業計画は提案通り承認された。

3.2 会計（案）（資料 7）（吉田理事）

3.2.1 平成 21 年度会計報告（案）（資料 11）

資料に従って決算報告が述べられた。会費収入については複数年度納入もある。第 16 回学術大会抄録集の売上は一般会計に納めた。学術大会よりの戻し金については、次年度からは、もし生じた場合は、基金会計へ納めることとする。

3.2.2 会計監査報告（資料 8）（小島監事）

監事両名がすべての領収書ならびに通帳を監査し、適切に処理されていることを確認した。

3.2.3 平成 22 年度補正予算（案）（資料 9）

一般会計の収入のうち会費については、本年 9 月 6 日段階の納入義務者数にて計算した。昨年総会で承認されたので、本年度より一般会員の会費が 2000 円増額となり、予備費に余裕が生じてきた。また、一般会計の支出の学術大会戻し金については基金会計に入れることになったので、その対応をした。

3.2.4 平成 23 年度暫定予算（案）（資料 10）

一般会計の収入のうち会費については、本年 9 月 6 日段階の納入義務者数にて計算した。支出のうち第 18 回学術大会については、後で審議がある様に柳澤裕之理事（東京慈恵会医大）に内定している。また、SOT への派遣も手島理事の承諾を得ているので、盛り込んである。他は例年通りである。後に審議のある学会賞・奨励賞の副賞は、基金会計から支出することと運営委員会で決定しているので、基金会計の支出にその項目が追加されている。

審議結果：上記会計案件は提案通りで承認された。

3.3 人事（役員任期終了に伴う改選）（大槻理事）

3.3.1 新理事長選出（資料11）

9月8日、新理事による新理事長の選出が行われ、現澤田純一理事長にもう一期、理事長をお務め頂くことで決定したことが報告された。

3.3.2 名誉会員の推挙（資料11）（案）

運営委員会より荒川泰昭先生（現同区率行政法人労働安全衛生総合研究所，元静岡県立大学教授，理事・評議員，第9回学術集会年会長）が，年齢規程により理事・評議員から退かれるに当たり，名誉会員に推挙することが提案された。

3.3.3 理事（案）（資料11）

資料通り，評議員全員から現評議員の中から10名の推薦を受け，7月5日に新理事の投票を終了した。7月8日に開催された運営委員会で資料の新理事案を次の理事会並びに総会に提示することが決定し，昨日の理事会に諮られた。再任16名に加えて新任は，高木邦明先生，高野裕久先生，角田正史先生，久田茂先生および姫野誠一郎先生（五十音順）の5名である。

3.3.4 新評議員（案）（資料11）

同様に6月14日から8月末日まで評議員2名の推薦による評議員候補者を募り，資料にある3名（宮越雄一先生，斎藤嘉朗先生，山浦克典先生）が推挙された。

3.3.5 委員会委員（報告）（資料12）

各種委員会委員は委員長による委嘱であるため審議は不要であるが，資料にある様に決定している。運営委員会には3名（上野光一理事，手島玲子理事，野原恵子理事）が新任となり，学術・編集委員会には2名（新藤智子先生，西村泰光先生）が新任で参加される。

3.3.6 次々年度年会長（案）（資料13）

既に暫定予算（案）でも紹介済であるが，次々年度年会長として東京慈恵会医科大学の柳澤裕之理事が推挙された。

3.3.7 2012年3月第51回SOT/ISS派遣候補者（資料13）

これも暫定予算（案）にて紹介があったが，2012年サンフランシスコで開催のSOT/ISSには手島玲子理事が推挙された。

審議結果：人事案件についてはすべて満場一致で承認された。

3.4 学会賞・奨励賞（案）（資料14）（牧理事）

3.4.1 資料に従って学会賞・奨励賞の規定の説明が行われた。なお，受賞者は，受賞年度の9月の学術集会にて授賞講演を実施するため，選出のタイムスケジュールが以下の様になることが併せて報告された。なお，これらの賞の新設に伴い，学術大会での奨励賞は本年度第17回が最後となる。

タイムスケジュール：2月末に公募締切，3月中に選考小委員会で選考，4月初旬運営委員会に選考結果を報告，4月中に理事会の承認取得（メールによる持ち回り審議），5月に授賞者へ連絡，授賞者は6月末に抄録を学術大会事務局へ提出。

また，規定あるいは推薦書等はHPよりダウンロード可能とし，応募開始時期に mailing list にて会員に周知することが説明された。

審議結果：学会賞・奨励賞について，提案通り了承された。

4 その他

4.1 医薬品 非臨床ガイドライン解説 2010 (資料 15) (大槻理事)

発刊の紹介と免疫毒性試験についての記載について紹介された。

5 次期年会長挨拶

5.1 資料 16 に沿って上野光一次期年会長より挨拶が行われた。

その後、荒川泰昭先生に名誉会員の称号ならびに副賞の授与式が挙行された。



事業報告 (配布資料参照)

平成21年度日本免疫毒理学学会事業報告(未)

平成22年9月9日

はじめに

日本免疫毒理学学会は、その前身である免疫毒理学研究会を含め、発足以来16年を経ました。その間、免疫毒理学分野の学際的な研究の発展を促進し、免疫毒理学の発展に貢献してきました。平成21年度においても、本学会の特色を保持しつつ、新しい研究動向を捉え、学会として取り組むべき課題を明らかにし、免疫毒理学分野の発展に貢献することを目的として、国内の免疫毒理学分野の発展を促進することを目的として、本学会の発展に貢献してきました。このように学会の活性化や運営基盤の強化のため、平成22年度からの学会費の値上げもお願いしたところです。

2. 平成21年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の事業報告

- 平成21年度理事会及び幹事・評議員会の開催
 理事会: 平成21年6月26日, 旭川市
 幹事・評議員会: 平成21年8月27日, 旭川市 (詳細は、<http://www.immunoto.org/number/gijiroku20090909.pdf> をご覧ください。)
- 第16回日本免疫毒理学学会学術大会の開催
 第16回学術大会を、平成21年6月27日～30日、旭川市民会館文化ホール小ホール(旭川市)にて、「子どもと免疫の学」のテーマで開催いたしました(年会長: 吉田重彦(旭川医科大学) / プログラム等の詳細は、<http://www.immunoto.org/index.html>の「学術大会」のページで、第16回学術大会をご覧ください。)
- 第17回日本免疫毒理学学会学術大会の開催準備
 第17回学術大会(平成22年9月9日～10日、つくば市、年会長: 藤巻秀和(国立環境研究所))の開催に向けて、準備を行いました。
- ImmunoTo-Letterの発行
 下記の2号の発行を行いました。
 14巻第1号(通巻27号、平成21年6月号)、和文版14巻、英文版17巻
 14巻第2号(通巻28号、平成21年12月号)、和文版18巻、英文版18巻
- 平成21年度の事務局及び委員会等の活動
 以下の活動をいたしました。
 1. 事務面
 (総務担当: 大槻理事)
 ・委員の募集、役員(総務・庶務・幹事・幹事委員会及び休会委員)の選任と会費納入状況の把握、自動会費納入システム等に関する事務。
 ・名簿作成
 (会計担当: 吉田理事)
 ・一般会計及び基金会計に関する事務
 ・予算書・決算書の作成
 2. 運営委員会
 3回(平成21年4月29日、平成21年7月13日、平成21年12月11日)の会合をオンラインで開催し、会務及び学術大会開催準備等の円滑な運営が行われるよう連絡を密にし、学会運営上の諸問題の対応方針を協議しました。

- 学術・編集委員会(委員長: 藤巻理事)
 旧学術及び編集委員会を併合し、新委員の委嘱を得ました。ImmunoTo-Letterの発行を上記のように2回行い、学会ホームページに掲載し、オンライン形式にてその旨連絡しました。通巻28号より行われている会誌の更新も進められました。本学会の学術的な発展を促すため、第12回学術大会より実施されているアンケート調査の内容の整理を促し、頂いたご意見を細かく取り扱って、運営委員会の回答もImmunoTo-Letterに掲載しました。
 - 広報委員会(委員長: 大槻理事)
 学会ホームページの定期的な更新を行い、学術大会等に関する情報を追加しました。また、英語サイト構築も進められ、パナー協会会報に掲載するための翻訳を行い、各理事からの提供の翻訳を行ってもらうことになりました(平成21年9月)。
 - 試験法委員会(委員長: 池井理事)
 本学会主催の試験法標準化作業の一環として、IHLを発源国として用いるラットのT細胞抗原抗体産生試験のプロトコルについての共同研究を開始し、学術大会のワークショップで報告を行いました。
 - 国際化委員会(委員長: 中村理事)
 50FESとの関係構築については、投票委員間の相互の出席性が課題であるとの認識から、日本からの派遣に対して学会から補助することになりました。50FESメンバーの学術大会への参加に関しては、50FES(購買)及び第16回学術大会(滞在費)からの補助によって行われました。大槻理事は、2010年3月の50FES理事会にも企画したシンポジウム、Sinks and Substrates: Immuno-toxicity: Mechanisms to Fibrosis, Autoimmunity, and Altered Bone Remineralizationの議長を務めるとともに、発表も行いました。また、中村理事が、50FESの次年度のCouncilに選出されました。
4. 平成21年度会計報告
- 通常会計
 別紙のとおり
 - 基金会計
 別紙のとおり(個人向け寄付、学術大会返納金等は通常会計から分離して基金会計として管理しております)

会員動向, 会費納入状況

会 員	2001.4	2002.4	2003.4	2004.4	2005.4	2006.4	2007.4.16	2008.4.15	2009.4.1	2010.4.1	2010.9.6
会員総数	200	224	245	253	263	255	253	223	232	231	247
一般会員								238	214	219	232
学生会員							12	6	7	7	10
賛助会員							0	0	1	0	0
名誉会員							3	3	5	5	5
住所不明による休会扱い							14	2	3	4	4
会費納入義務者数 一般会員/学生会員							225/11	212/6	217/7	215/7	228/10

入会・退会者	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度 2010.9.6現在
入 会	16	25	25	22
退 会	53(36)	15(3)	25(5)	6

()内は会費滞納により退会処理した会員数

役 員	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度 2010.4.1現在	2010年度 2010.9.6現在
理 事	21	21	21	21	20
評 議員	48	55	58	52	50
会計監査	2	2	2	2	2

会費納入状況	2007.3.31	2008.3.31	2009.3.31	2010.3.31	2010.9.6
未納なし	175	197	208	206	165
未納あり	75	23	18	21	73
合 計	250	220	227	227	238

バナー広告報告



区別	継続確認	No.	ネット種類	期間	会社名	担当者	窓口
終了		1	試薬	2008.07-2008.12	岩井化学薬品株式会社	大久保 貴之	83澤田先生
終了	2008.11月末	継続		2009.01-2009.06			
終了	2009.5月末	継続		2009.07-2009.12			
終了	2009.11月末	継続		2010.01-2010.06			
掲載中	2010.5月末	継続		2010.07-2010.12			
	2010.11月末						
終了		2	機器	2008.11-2009.04	株式会社 大熊	岡本 和義	270大熊先生
終了	2009.3月末	継続		2009.05-2009.10			
終了	2009.9月末	継続		2009.11-2010.04			
掲載中	2010.3月末	継続		2010.05-2010.10			
	2010.9月末						
終了		6	試薬	2009.05-2009.10	和光純薬工業株式会社	馬場 啓之	85千鳥先生
終了	2009.9月末	継続		2009.11-2010.04			
掲載中	2010.3月末	継続		2010.05-2010.10			
	2010.9月末						
終了		8	その他	2009.11-2010.04	シスコ・カムイ株式会社	五十嵐 真幸	106吉田先生
掲載中	2010.3月末	継続		2010.05-2010.10			
	2010.9月末						
掲載中		9	機器	2010.02-2010.07	アルテア技研株式会社	栗原 守	113筒井先生
確認済み	2010.6月末			継続なし			

学術大会報告

1. 第16回 旭川 終了報告



2. 第17回 つくば (後報告)

3. 第18回 千葉 (後報告)

委員会報告

1. 学術・編集委員会
2. 広報委員会
3. 試験法委員会
4. 国際化委員会

新委員：新藤智子，西村泰光

JISIT/SOT 交流事業について

2011. SOT 50th
anniversary meeting
↓
JISTとしてBooth出展

年	Jpn → USA (March)	USA → Jpn (September)
2005		Dr. Cohen 第12回(東京) J Immunotox. の紹介
2006		Dr. Regal 第13回(倉敷)
2007		Dr. Dietert 第14回(神戸)
2008	47th Seattle 香山先生(JSIT 紹介)I	Dr. Puruett 第15回(東京)
以後	正式に契約を交わし、相互に旅費負担をするようになる	
2009	48th Baltimore 野原先生	Dr. Zelikoff 第16回(旭川)
2010	49th SLC 大槻	Dr. Bureleson 第17回(つ くば)
2011	50th (Washington D.C.) 吉田先生	第18回(千葉)
2012	51 st (San Francisco) 手島先生	第19回(東京)
2013	52nd (San Antonio, Texas)	第20回

事業計画(案)(配布資料参照)

日本免疫毒理学学会事業計画(平成22年度後期～平成23年度前期)(案)

平成22年9月9日

仮め案。

日本免疫毒理学学会は、その前身である免疫毒理学研究会をきり、発足以来16年となりました。その間、免疫毒理学に携わる異分野の方々との情報収集と意見交換の場として、小規模ではありましたが、まわって学術的な学会として活動してまいりました。今後とも、本学会の特色を保ちつつ、新しい領域に広がる研究期間も積極的にとりあげ、委員によって3つの大きな学会として存続することが求められております。そのためには、学会の運営基盤の強化のため国内の学術活動のより一層の充実を図る必要があると考えるます。また、引き続き、本学会の国際化のため、米国トキオコロギア学会免疫毒理学分科会(SOT-ES)との交流も深めたいと思っております。

本学会の事業計画は、毎年、秋期の総会による承認を受けていることから、本事業計画は、概ね平成22年度後期の総会日から平成23年度の総会前日までの期間(平成22年度後期及び平成23年度前期)を対象としております。なお、事業報告と会計上の予算は、通常の年度(4月から翌年3月)の期間で行っております。また、役員等の選任任期は、10月1日から開始することになります。

2. 事業計画(平成22年9月9日から平成23年度総会前日まで)

- 1) 平成22年度理事会、総会・評議員会の開催
理事会：平成22年9月8日、つくば市(既に開催)
総会・評議員会：平成22年9月9日、つくば市
- 2) 第17回日本免疫毒理学学会学術大会の開催
第17回学術大会を、平成22年9月9日～10日、つくば市にて開催します。(年会長：藤巻孝和(国立環境研究所))。
- 3) 第18回日本免疫毒理学学会学術大会の開催準備
18回学術大会(平成23年秋、千葉市、年会長：上野光一(千葉大学薬学部))の円滑な運営のための準備を行います。
- 4) 学会役員などの改選
平成22年度後期(10月1日付け)以降の評議員及び理事の改選選挙を行い、総会で承認を受け、また、理事会において新理事長の選任を行い、総会で承認を受け、
- 5) 平成23年度理事会の開催
平成23年秋、千葉市(予定)
- 6) Inmunotox. Letterの発行
既に15巻第1号(巻第29号、平成23年6月号)は既刊となっておりますが、さらに下記の2号の発刊を予定しております。
15巻第2号(巻第30号平成23年12月号)
16巻第1号(巻第31号平成24年6月号)
- 7) 学会員及び関係者の新設
現在の学術大会における年次集等の他に、学術的に優れた業績を顕彰した学会員を表彰するための学会員及び関係者の新設及びその選考規定等を提案し、総会の承認を得ます。
- 8) 第19回日本免疫毒理学学会学術大会の開催地の決定
第19回日本免疫毒理学学会学術大会(平成24年秋)の年会長及び開催地を決定し、総会の了承を得ます。

3. 事務局及び委員会の活動

以下の活動を予定しております。

1) 事務局

(総務)

・会員の募集、会費(会費：一般・学生・賛助会費十休会費)額の増減と会費納入状況の把握、自動返金(会費未納返金を管理)等の事務

・名簿作成

(会計)

・一般会計及び基金会計に関する事務

・決算書及び予算書の作成

2) 運営委員会

平成22年度前期には既に2回(平成22年4月19日、平成22年7月6日)開催しておりますが、さらに後期の会費を精査し、総務、学術大会等に関して円滑な運営が行われるよう、連絡を密にするように努めます。

3) 学術・編集委員会

Inmunotox. Letterの刊行を2回行い、学会ホームページに掲載し、電子メールにて通知を図ることを予定しています。また、英語版の追加も組織する予定です。

学会員などの選考に関する選考小委員会を設置して、候補者の選考を行います。

4) 広報委員会

総会して、学会ホームページの定期的な更新を行い、英語サイトの充実につとめます。パナー広告企業を新たに増やすための積極的な勧誘を行う予定です。

5) 試験法委員会

本学会主催の試験法標準化等についての共同研究を組織し、ワークショップでの発表を実施します。具体的には、環境保健性抗体産生試験法についての共同研究の発展のとらめとめを行います。農業の免疫毒理学に際しても勧誘を加えます。また、試験に用いる動物種に関する勧誘も行う予定です。次世代影響あるいは免疫毒理学に際する試験法を視野に入れた検討を行います。

6) 国際化委員会

米国トキオコロギア学会の免疫毒理学セッション(SOT-ES)との交流に関して、今後とも積極的に取り組んでいく予定です。異国との交流も、その実現に向けた方向性を検討する予定です。

4. 予算

1) 平成22年度通常会計補正予算(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

別紙のとおり

2) 平成23年度暫定予算(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

別紙のとおり

3) 基金会計

別紙のとおり、総会して、学術大会返納金や個人的な寄付等を、通常会計から分離して別基金計として管理し、現在検討中の学会員などの顕彰に充てることと同時に、通常会計で対応不可能な予算措置が必要時に備えます。

資料7

日本免疫毒性学会 平成21年度(2009年度) 会計報告(案)			
一般会計			
(単位円)			
収入			
科目	修正予算	決算	備考
前年度(2008年度)繰越金	605,867	605,867	
H21年度(2009年度)会費	1,434,000	1,384,000	内訳(一般211、一般過去年度16、学生11名)
SOT-IIX-SSより交流分贈金		77,400	
第16回学術大会(旭川)戻し金		344,571	
学術大会抄録売上		6,000	第16回学術大会抄録 2000円×3冊
ホームページ・パンフレット	360,000	330,000	
雑収入	1,000	266	銀行預金利息
収入合計	2,400,867	2,748,104	
支出			
科目	修正予算	決算	備考
第17回学術大会(つくば)運営費	600,000	600,000	
第49回SOT年会派遣助成	100,000	100,000	SOT(Salt Lake City)(大柳)
基金会計へ振替	372,970	372,970	第15回学術大会戻し金
会議費	350,000	228,580	会議費(委員交通費)
通信費	100,000	78,596	切手・葉書、宅配便、電話
News Letter 製作費	150,000	148,575	第14巻、1、2号
事務費	250,000	312,248	文具、振込料金、事務局稼費、FAX代(2年度分)等
ホームページ維持費	300,000	245,070	
予備費	177,897	662,065	次年度(2010年度)への繰越
支出合計	2,400,867	2,748,104	
基金会計			
収入			
科目	予算	決算	備考
前年度(2008年度)繰越金見込み	200,000	200,000	寄付(会員1名、20万円)北洋銀行定期預金
通常会計より振替	372,970	372,970	第15回学術大会戻し金
雑収入	100	560	銀行利息
収入合計	573,070	573,530	
支出			
科目	予算	決算	備考
予備費	573,070	573,530	次年度(2010年度)への繰越
支出合計	573,070	573,530	
総計	2,973,937	3,321,634	

平成21(2009)年度 会計報告(案)

資料8

平成21年度(2009年度)日本免疫毒性学会
会計監査報告書

平成21年度日本免疫毒性学会の会計書類を慎重に監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしましたので、ご報告いたします。

2010年8月23日
高橋道人

2010年8月18日
小島幸一

平成21(2009)年度 会計
監査報告

資料9

日本免疫高性学会 平成22年度(2010年度) 補正予算案			
収入			(単位円)
科 目	暫定予算	補正予算	備 考
前年度(2009年度)繰越金	177,897	662,065	
H22年度(2010年度)会費	1,434,000	1,844,000	内訳(一般会員会費納入義務者数228/10[一般/学生]名、2010年9月現在 (228x8,000=1,824,000/10x2,000=20,000))
ホームページ・パンフ広告	600,000	330,000	5社程度見込(2009年実績:330,000円)(半期あり)
雑収入	1,000	1,000	銀行預金利子2009年度実績 266円
収入合計	2,212,897	2,837,065	
支出			
科 目	暫定予算	補正予算	備 考
第18回学術大会(千葉)運営費	600,000	600,000	
第50回SOT年会派遣助成	100,000	100,000	2011年3月(Washington D.C.) (吉田)
会議費	350,000	300,000	会議費(委員交通費、2009年度実績228,580円)
通信費	100,000	100,000	切手・葉書、宅配便、電話(2009年実績78,596円)
News Letter 製作費	150,000	150,000	2号分(2009年実績148,575円)
事務費	200,000	250,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ維持費	300,000	300,000	2009年実績245,070円
基金会計へ振替		344,571	第16回学術大会戻し金
予備費	412,897	692,494	次年度(2011年度)への繰越見込み
支出合計	2,212,897	2,837,065	
基金会計			
収入			
科 目	予算	補正予算	備 考
前年度(2009年度)繰越金見込み	573,530	573,530	内200,560円は北洋銀行定期預金
通常会計より振替		344,571	
雑収入	200	200	
収入合計	573,730	918,301	
支出			
科 目	予算	補正予算	備 考
予備費	573,730	918,301	次年度(2011年度)への繰越見込み
支出合計	573,730	918,301	
総計	2,786,627	3,755,366	

平成22(2010)年度 会計補正予算(案)

資料10

日本免疫高性学会 平成23年度(2011年度) 暫定予算案			
収入			(単位円)
科 目	暫定予算	備 考	
前年度(2010年度)繰越金見込み	692,494		
H22年度(2011年度)会費	1,844,000	内訳(一般会員会費納入義務者数228/10[一般/学生]名、2010年9月現在 (228x8,000=1,824,000/10x2,000=20,000))	
ホームページ・パンフ広告	300,000	5社程度見込	
雑収入	1,000	銀行預金利子2009年度実績 266円	
収入合計	2,837,494		
支出			
科 目	暫定予算	備 考	
第18回学術大会(東京)運営費	600,000		
第51回SOT年会派遣助成	100,000	2012年3月San Francisco(手島先生)テーマ採用の場合	
会議費	300,000	会議費(委員交通費、2009年度実績228,580円)	
通信費	100,000	切手・葉書、宅配便、電話(2008年実績92,274円)	
News Letter 製作費	150,000	2号分(2009年実績148,575円)	
事務費	250,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等	
ホームページ維持費	300,000	2009年実績245,070円	
予備費	1,037,494	次年度(2011年度)への繰越見込み	
支出合計	2,837,494		
基金会計			
収入			
科 目	予算	備 考	
前年度(2009年度)繰越金見込み	918,301		
雑収入	200		
収入合計	918,501		
支出			
科 目	予算	備 考	
予備費	808,501	次年度(2011年度)への繰越見込み	
学会員・奨励員 諸員	110,000	学会員(5万円、1名以内)、奨励員(3万円、2名以内)	
支出合計	918,501		
総計	3,755,995		

平成23(2011)年度 会計暫定予算(案)

人事(案) (2010.10.1.~2013.9.30.)

1. 理事長 澤田純一
2. 名誉会員 荒川泰昭
3. 理事

再任(16名)	(五十音順)			
井上智彰	上野光一	大槻剛巳	香山不二雄	日下幸則
小坂忠司	坂部 貢	筒井尚久	手島玲子	中村和市
野原恵子	藤巻秀和	牧 栄二	柳澤裕之	吉田貴彦
吉野 伸				
新任(5名)				
高木邦明	高野裕久	角田正史	久田 茂	姫野誠一郎

4. 新評議員

- 宮越 雄一(東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 講師)
 斎藤 嘉朗(国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部 部長)
 山浦 克典(千葉大学大学院薬学研究院 講師)

人事(案) (2010.10.1.~2013.9.30.)

5. 委員会委員

五十音順
青: 委員長

運営委員会

再任	大沢基保	大槻剛巳	澤田純一	高橋道人	筒井尚久
	中村和市	藤巻秀和	牧 栄二	吉田貴彦	
新任	上野光一	手島玲子	野原恵子		

学術・編集委員会

再任	筒井尚久	角田正史	手島玲子	野原恵子	姫野誠一郎
	藤巻秀和				
新任	新藤智子	西村泰光			

広報委員会

再任	大槻剛巳	香山不二雄	中村亮介	藤巻秀和	牧 栄二
----	------	-------	------	------	------

試験法委員会

再任	筒井尚久	手島玲子	中村和市	久田 茂	牧 栄二
----	------	------	------	------	------

国際化委員会

再任	荒川泰昭	香山不二雄	中村和市	野原恵子	
----	------	-------	------	------	--

事務局 再任 総務: 大槻剛巳, 牧 栄二, 会計: 吉田貴彦

人事(案)

6. 年会長

次々年度(平成24年-2012年)年会長(案)

柳澤 裕之 先生

(東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 教授)

7. 2012年, 2013年 SOT/ISS派遣候補者

2012年 サンフランシスコ

手島 玲子先生: 国立医薬品食品衛生研究所 代謝生化学部

SOT/ISS派遣(JSITからの)スケジュール概要(例2012年)		
2012年	3月	SOT/ISS annual meeting
2011年	8月	企画(Symposium or Workshop)抄録提出
2011年	6月頃	SOT 年次大会委員会による企画の正式採択決定
2011年	3月	SOT年次大会にて行われるISSの会合にて年次大会委員会に推薦する企画の決定
2011年	2月	SOT/ISSの委員会の中で, 3月の年次大会の中でのISSの会合で企画として候補4つくらいの中から其々 symposium 2つ, workshop 2つ程度をほぼ決定
2011年	1月後半	ISSの委員会への企画案の最終練り直し(数行の講演内容などの最終調整)
2010-11年	年末~年始	企画案の調整: co-chairとなるISS内の研究者と窓口である Dr.Cohen や中村理事とともに, 講師とその題目, 数行の内容紹介などを調整
2010年	10-11月	Dr.Cohenと中村理事によりJSIT派遣者からの企画のテーマに沿った内容で, ISS内からの co-chair 候補者の選定, 同時に講演候補者の調整
2010年	9月	中村理事より Dr.Cohen に JSIT からの派遣候補者名と企画のテーマの通知

日本免疫毒性学会 学会賞・奨励賞

日本免疫毒性学会 学会賞選考規定

第1条 設置: 日本免疫毒性学会は学会賞を設ける。

第2条 授賞の対象:

免疫毒性に関して顕著な研究業績をあげ、かつ日本免疫毒性学会の発展と充実に大きく貢献した本学会員に授与する。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とはならない。

第3条 候補者の資格:

現に10年以上継続して日本免疫毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満65歳以下であるもの。

第4条 表彰:

授賞者数は毎年1名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本免疫毒性学会学術年会の総会にて行う。

第5条 受賞講演:

受賞者は当該年度の日本免疫毒性学会学術年會にて受賞講演を行う。

第6条 候補者の推薦:

評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、授賞候補者に関する所定の書類を日本免疫毒性学会理事長(事務局)に2月末までに提出する。

1. 推薦書(候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの)
2. 推薦理由(2000字以内)
3. 学会賞の対象となる業績目録: 原著論文、総説・著書
4. 過去5年間に日本免疫毒性学会学術年會で発表した一般講演演題リスト(共同著者となっている演題を含む)

日本免疫毒性学会 奨励賞選考規定

第1条 設置: 日本免疫毒性学会は奨励賞を設ける。

第2条 授賞の対象:

免疫毒性に関する研究において独創的な研究業績をあげており、将来が期待される本学会員に授与する。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

第3条 候補者の資格:

現に3年以上継続して日本免疫毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下であるもの。

第4条 表彰:

授賞者数は毎年2名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本免疫毒性学会学術年會の総会にて行う。

第5条 受賞講演:

受賞者は当該年度の日本免疫毒性学会学術年會にて受賞講演を行う。

第6条 候補者の推薦:

評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、授賞候補者に関する所定の書類を日本免疫毒性学会理事長(事務局)に2月末までに提出する。

1. 推薦書(候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの)
2. 推薦理由(2000字以内)
3. 奨励賞の対象となる業績目録: 原著論文、総説・著書
4. 過去3年間に日本免疫毒性学会学術年會で発表した一般講演演題リスト(共同著者となっている演題を含む)

その他:「非臨床試験ガイドライン 開設 2010」について

新刊案内	目次
<p>前の記事</p> <p>次の記事</p> <p>2010年6月15日 (火)</p> <p>医薬品 非臨床試験ガイドライン 解説 2010</p> <p>医薬品の非臨床試験各種ガイドラインの解説書。</p> <p>「医薬品非臨床試験ガイドライン解説2002」発行後に発出された新しいガイドラインの通知等を受け、ICHに参加されている専門家の協力により、本解説書を改訂。</p> <p>「医薬品の免疫毒性試験に関するガイドラインについて」、「ヒト用医薬品の心室再分極遅延(QT間隔延長)の潜在的可能性に関する非臨床的評価について」、「医薬品の臨床試験及び製造販売承認申請のための非臨床安全性試験の実施についてのガイダンス」、「抗悪性腫瘍薬の非臨床安全性試験方法に関するガイドライン」については、新たに章を起して解説を付け加えた。</p> 	<p>1 医薬品非臨床試験法ガイドライン概要</p> <p>2 医薬品非臨床試験ガイドライン解説</p> <p>2-1 単回投与毒性試験</p> <p>2-2 反復投与毒性試験</p> <p>2-3 遺伝毒性試験</p> <p>2-4 がん原性試験</p> <p>2-5 生殖発生毒性試験</p> <p>2-6 トキシコキネティクス (毒性試験における全身的動態の評価)</p> <p>2-7 皮膚感作性試験</p> <p>2-8 皮膚光感作性試験</p> <p>2-9 バイオテクノロジー応用医薬品の非臨床評価</p> <p>2-10 免疫毒性試験</p> <p>2-11 抗悪性腫瘍薬の非臨床評価</p> <p>2-12 安全性薬理試験</p> <p>2-13 ヒト用医薬品の心室再分極遅延(QT間隔延長)の潜在的可能性に関する非臨床的評価</p> <p>2-14 非臨床薬物動態試験</p> <p>2-15 反復投与経腸分布試験</p> <p>2-16 医薬品の臨床試験および製造販売承認申請のための非臨床安全性試験の実施について</p> <p>編集: 医薬品非臨床試験ガイドライン研究会(C105) 定価: 4,620円[本体4,400円] B5判・384頁 ISBN978-4-9408-1139-2 C2047</p>

第18回日本免疫毒性学会学術大会のご案内

期 日 : 平成23年9月8日(木)～9日(金)

会 場 : 千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館

年会長 : 上野 光一(千葉大学大学院薬学研究院)

大会テーマ : 「臨床と基礎の免疫毒性クロストーク」

招聘講演 : 「Histamine H₄ receptor and immune function (仮)」
Robin L. Thurmond, J & J Pharm R & D, Research Fellow

特別講演 : 「化学物質と子供の健康に関する研究について(仮)」
森 千里 千葉大学大学院医学研究院教授

教育講演 : 「重症薬疹発症と関連する遺伝子マーカー(仮)」
鹿庭 なほ子 国立医薬品食品衛生研究所

**シンポジウム
ワークショップ** : 「食物アレルギー(仮)」
手島 玲子 国立医薬品食品衛生研究所 ほか

千葉大学大学院薬学研究院高齢者薬剤学研究室
山浦 克典
事務局 : E-mail: jsit18-office@umin.ac.jp
電話: 043-266-2878 FAX: 043-266-2879